

三国志研究会（全国版） 210206

『晋書』 卷六 元帝紀を読む

佐藤大朗（ひろお）

【原文】

晋書勅注卷六

帝紀第六

元帝

元皇帝諱睿、字景文、宣帝曾孫、琅邪恭王
覲之子也^[-]。咸寧二年、生於洛陽、有神光
之異^[二]、一室尽明、所藉藁如始刈。及長、
白毫生於日角之左^[三]、隆準龍顏、目有精曜、
顧眄煒如也^[四]。年十五、嗣位琅邪王。幼有
令¹聞。

〔校勘〕

1. 百衲本・中華書局本は、「聞」につくる。

〔勅注〕

〔一〕 文選勸進表注王隱晋書曰、元帝、琅邪
共王之長子睿。魏書作叡。世説言語篇注
朱鳳晋書曰、諡法始建国都曰元。

〔二〕 類聚十晋中興書曰、誕有神光。

〔三〕 御覽三百六十四王隱晋書曰、元帝白毫
生額上有光明。

〔四〕 世説言語篇注朱鳳晋書曰、少而明惠。

《訓読》

元皇帝 諱^{げんこうてい いみ}は睿^な、字^{えい}は景文^{あぎな けいぶん}、宣帝^{せんてい}の曾孫^{そうそん}
にして、琅邪^{ろうや}恭王^{きょうおう}の覲^{きん}の子^{かんねい}なり^[-]。咸寧二

〈二七六〉年、洛陽に生まれ、神光しんこうの異有り
〔二〕、一室ことごと 尽しく明るく、藉わらく所の藁し 始め
て刈るが如し。長ちやうずるに及び、白豪はくごう 日角につかく
〈額〉の左に生え〔三〕、隆りゆうじゆん 準じゆんなる〈鼻梁りゆうがんの
高い〉龍顔りゆうがんにして、目に精曜せいよう有り、顧眄こべんす
る〈見わたす〉に煒如いじよたる〈眼光いこうが鋭い〉な
り〔四〕。年十五にして、位くら 琅邪王ろうやおうを嗣ぐ。
幼れいぶんくして令聞れいぶん 〈よき誉れ〉有り。

〔斟注〕

- 〔一〕文選勸進表注もんぜんかんじんひやう 〈引〉王隱おういん『晋書』に
曰く、「元帝げんていは、琅邪ろうや共王きやうおうの長子ちやうしたる睿
なり」と。〈魏収ぎしゆう〉『魏書』は「叡えいにつく
る。『世説せせつ〈新語しんご』』言語篇注げんごへん 〈引〉朱鳳しゅほう
『晋書』に曰く、「『諡法しほう』に「始めて国都こくと
を建つるは元げんと曰ふ」と」と。
〔二〕『藝文類聚げいもん るいじゆう』〈卷〉十〈所引しんちゆうこうしよ』『晋中興書』
に曰く、「誕おほいに神光しんこう有り」と。
〔三〕『太平御覽たいへい ぎやらん』〈卷〉三百六十四〈所
引おうしん しんじよ〉王隱おういん『晋書』に曰く、「元帝げんてい 白毫はくごう〈白
い細毛こうみよう〉額の上こうみように生えて光明こうみよう有り」と。
〔四〕『世説せせつ〈新語しんご』』言語篇注げんごへん 〈引〉朱鳳しゅほう『晋書』
に曰く、「少わかくして明恵めいけいなり」と。

【原文】

及恵皇之際、王室多故、帝每恭儉退讓、以
免於禍。沈敏有度量、不顯灼然之迹、故時人
未之識焉。惟侍中嵇紹異之、謂人曰、琅邪王
毛骨非常、殆非人臣之相也。

《訓読》

恵皇けいこうの際さい〈二九〇～三〇七年〉に及び、王室おうしつ
多故たご〈多事多難〉なり、帝 毎に恭儉こうけん〈つづ
まやか〉にして退讓たいじやう〈ひとに謙讓〉し、以て禍か
を免まぬかる。沈敏ちんびんにして〈落ち着いて聡く〉度量どりよう
有あり、灼然しゃくぜんの〈著しく目立つ〉迹せきを顕あらはさず、故ゆえ
に時人じじん 未だ之いま 識これらざるなり。惟ただ侍中じちゆうの
嵇紹けいしょう 之いを異いとし、人いに謂いはひて曰く、「琅邪
王もうこつの毛骨もうこつ〈容貌〉常じょうに非ほとんず、殆じんしんど人臣じんしんの相そう
に非ひざるなり」と。